

読者
の
声
を
聞
く
報
道
大
会
の
報
告

追悼、復興、願う夜空

「LIGHT UP NIPPON」主催の花火大会・記事20（※）

No
984

今号の主な内容

東日本大震災の記録
—後世に残し伝えるために— 2～21
各種健康診査を実施 22

CONTENTS

2011
9月1日号

東日本大震災の記録

— 後世に残し伝えるために —

家や車をのみ込みながらせまり来る津波（3月11日午後3時25分ころ・役場屋上より撮影）

耳を切り裂くような騒音とともに、電柱をなぎ倒し、家や自動車をのみ込みながら土煙を上げて迫りくる津波。「未曾有の災害」「想定外の惨事」——。どのような言葉をもってしても言い尽くせない現実が目の前に広がっていた。

平成23年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0という世界最大級の地震が発生。この地震が引き起こした津波は、わたしたちの町に壊滅的な被害をもたらしました。

あれからもうすぐ半年。がれきの撤去が進み、町の全容が変わりつつある今、二度と津波による犠牲者を出さない町づくりのため、復興に向け力を合わせて取り組まなければなりません。

今号では、あの日何が起きたのかを全町民に知っていただき、ありのままを後世に残し伝えるため、東日本大震災の被害の状況などをお知らせします。（特集21ページまで）

地震発生から24時間

【3月11日】

14時46分 三陸沖（北緯38度1分、東経142度9分）を震源とする、マグニチュード9.0の地震発生。本町では震度5弱を観測。直ちに、山田町災害対策本部を設置

14時49分 大津波警報発表、全町に避難指示

15時17分 船越地区で津波が水門を破る

15時22分 山田湾湾口から4〜5メートルの波を確認

15時24分 山田地区で津波が防潮堤を越える

15時25分 田の浜と織笠で火災発生を確認

15時30分 八幡町と長崎、大沢新開地区で火災発生を確認

15時39分 豊間根支部へ炊き出しを依頼

16時55分 航空自衛隊に消火要請

17時28分 消防団全部車両消火出動要請

20時25分 山田地区への最初の炊き出しが荒川地区より到着

21時39分 自衛隊より物資提供

23時18分 道路復旧のため町内業者の重機が間木戸林道で待機

【3月12日】

2時23分 役場周辺へ火災が延焼、中央公民館などの避難者を豊間根地区へ移動開始

6時31分 境田地区で山林火災

8時6分 自衛隊ヘリコプターによる空中からの消火開始

11時45分 山田道路・船越〜柳沢間復旧

14時41分 旧タブの木荘から山田高校へのヘリコプターによる避難者搬送開始

15時17分 大沢〜柳沢間の国道復旧



津波と火災により被害を受けた山田地区中心部（3月23日上空より撮影）

平成23年3月11日14時46分、大地震が山田町を襲った。震度は5弱、マグニチュードは世界最大級の9・0を記録した。

およそ30分後、大津波が襲来。波は防潮堤を超え、町へ流れ込んだ。津波の高さは、山田湾内で8メートル、船越で15メートル、田の浜で18メートル、小谷島では25メートルと推測される。津波の力は、何トンもある防潮堤をいとも簡単になぎ倒すほど強大なものであった。その後、激しい押し波と引き波を何度も繰り返した。

津波の浸水面積は、大沢、山田、織笠、船越、田の浜、大浦の市街地の面積407畝のうち約5割にも及ぶ209畝にも達した。

また、津波後発生した火災も甚大な被害をもたらした。

山田地区では、長崎と八幡町からほぼ同時に火災が発生。車などへの引火による大きな爆発を繰り返しながら、がれき伝いに延焼した。消防団員が消防活動を行うが、がれきが消防車の行く手をさえぎるため、消火栓からホースを何本もつなげて放水を行った。しかし、津波は町内の水道水をまかかっている水源地の施設をも破壊。各地区の高台にある配水池にくみ上げられていた水が無くなり、水の供給が途絶えた。それでも団員ら



山田

①がれきの中から出火し黒煙が上がり始める（長崎地区より撮影・3月11日午後4時31分）＝渋谷力さん提供＝②火災は自動車のガソリンなどに引火し、深夜になっても爆発を繰り返しながら延焼（八幡町・12日午前2時30分）③辺り一面が焼け野原となった役場前（同・12日午後3時18分）＝佐々木一彦さん提供＝

田の浜地区では、炎が民家だけではなく山林にも燃え移った。消防車が進入できないため消防団員は小型ポンプを背負い、何度も水を補給しながら山へ向かった。消防団や自衛隊へりなどの懸命な消火により、大規模な山火事は免れることができた。町内では、津波や火災による建物の被害が3304棟（全壊2789棟、大規模半壊208棟、半壊187棟、一部損壊120）。漁業関係では、登録漁船2138隻のうち約1590隻が流出や損壊、養殖施設や作業小屋のほとんどが壊滅的な被害を受けた。

は沢水をせき止めたり防火水槽のがれきを取り除いたりしながら、必死の消火活動を続けた。火災の勢いは深夜になっても収まらない。八幡町では役場を囲むように炎が迫ってきたため、保健センターや中央公民館などに避難していた1000人を超える避難者は、自衛隊車両などにより関口を通って豊間根地区に避難。また、山田中学校に避難していた住民は、長崎地区から山伝いに火災が延焼してきたため、歩いて山田高校へ逃れた。翌日も火災が続いたが、自衛隊の消防車やヘリからの放水も行われ、山田地区の火災は夕方には徐々に収束していった。



大沢



大沢地区では、全住宅の7割近くが被害を受けた（ふるさとセンターより撮影・3月13日）



漁港から数十メートルも流され打ち上げられた漁船



家屋が流され基礎部分だけが残る（浜川目地区・3月21日撮影）

大沢・川向地区の山田消防署にも階段
2階踊り場にまで津波が押し寄せた

被災の状況



土煙を上げながら家屋をのみ込み流れ込む津波（3月11日3時23分）
＝橋浦恒一さん提供・下写真も同じ＝



まだがれきの残る震災1カ月後の様子（4月17日撮影）



織笠

津波により破壊された織笠川に架かる J R 山田線の鉄橋



大木がなぎ倒され国道から織笠駅
へ向かう道路が寸断された



住宅が密集していた地域もがれきの山に



基礎部分だけ残る J R 織笠駅とその周辺



地区の大半が浸水し火災も発生した田の浜地区（3月24日撮影）



津波の威力によりなぎ倒された田の浜地区の高さ8.35mの防潮堤

船越・田の浜



高台にあった船越小学校も被災し1階天井まで浸水したが、児童らは職員の手引きにより裏山に避難し無事であった



前須賀地区（手前側）の防潮堤が決壊。津波発生時は、船越湾と山田湾それぞれからの津波がぶつかり合った。船越家族旅行村も元の姿をとどめていない（3月28日撮影）



大浦



津波の後には多くの漁具や家屋の残がいが残った（大浦地区）



堤防が破壊され甚大な被害を被った大浦漁港



小谷鳥海岸にそびえ立っていた防潮堤と防潮林は津波により跡形もなく破壊され、直接海が見えている（小谷鳥・3月25日撮影）



壊滅的な被害を受けた小谷鳥地区。大浦側に向かう岬の直前まで浸水した（3月28日撮影）

一人でも多く

震災直後から現在に至るまで、
消防・自衛隊・警察などの各機関は、
帰りを待つご家族のために懸命の
搜索を続けています。



過酷な状況の中強い使命感から搜索を続ける警察機関(愛知県警察)



地元の漁業者との連携による搜索(陸上自衛隊員)

過酷な作業、それでも救いたい、強い使命感

このたびの震災では、消防や自衛隊、警察機関などによる生存者の救出や行方不明者の搜索が行われてきました。

町消防団は、震災直後から、

延焼する火災の消火活動のほか、担当する各地区の搜索を行います。町中ががれきで埋め尽くされる中、一つ一つ手作業で取り除きながらの作業。日中の搜索活動に加え、夜は警戒をしながらくすぶっている火の消火に追われ、疲労が重なります。被災した団員もいる中、それでも団員らの体を動かしてきたのは「これまでも町を守ってきた。大変な状況でも自分たちの手でこの町を守りたい」という強い思いだったといえます。

山田消防署員は、火災が鎮火した後、救急活動がメインとなりました。3月11日から4月9日までの救急搬送は、通常約3カ月分の162件、搬送は宮古市まで片道3時間近くかかることも。過酷な状況が続く、十分な休息もままならない毎日。それでも使命感を胸に、各県からの応援を受けながら活動を続けました。

山田交番の所員は、地震直後、

避難誘導のため各地区へ向かいました。漁港近くへ向かった所員は、水位の上昇に危険を察知し、様子を見に来ていた人たちに避難を指示し、その後に津波が到来。交番も津波の被害を受け、道具も無い中、がれきの中に残り残された人の声を聞き、残ったのこぎりなどをかき集め、火の手がせまる中での救出作業を行いました。

4月からは警戒・巡回が活動の中心となり、各県からの応援部隊とともにパトロールや交差点の交通整理などを行っています。また、8月にも大規模な搜索を行い、今もお懸命に搜索活動を続けています。

自衛隊は、陸上自衛隊第九特科連隊、航空自衛隊北部航空方面隊などが駐留しました。道路の確保や救出・搜索作業のため、大型の重機を多数投入。支障となる大きながれきの撤去を行いながら、行方不明者の搜索を行いました。特に、がれきが多くの



救いたい一心で仲間と協力しながら横倒しとなった車を確認する消防団員



今もなお続けられている大雪りばあねつによる搜索



陸中山田駅付近の搜索をする航空自衛隊員



海中に沈んでいるがれきを一つ一つ確認していく

残る川の中や沼地などの危険な場所でも、機動力を生かして果敢に挑みました。

地元の漁業者と協力し 今もなお続く搜索作業

震災後から現在に至るまで、本町で搜索活動が続ける民間の団体があります。

北海道旭川市を拠点に活動するNPO法人「大雪りばあねつ」とは、その能力と経験を被災地のために役立てたいと、3月26日に本町に駆け付けました。同団体の主な事業は、北海道の河川の利用や地域の安全に関する活動、災害救助支援活動など。本町では、自衛隊や海上保安庁と連携し、主に海上での行方不明者の搜索を行っています。

海上は、流出したがれきが養殖棚に絡まり、船を思うように進ませることができない状況。地元の漁業関係者とも協力し、がれきを撤去しながら作業に当たりました。

同団体の搜索の主力は、機動力がある小型漁船やボートなど。上空で巡回するヘリコプターとも連絡を取り合いながら、搜索を行っています。

現在でも、海底に沈んでいるがれきを撤去しながら、懸命の搜索が続けられています。



震災直後から炊き出しを続けてくれた陸上自衛隊の皆さん

停電・断水・道路断絶 食糧不足は危機的状況

震災発生直後の町内は、停電と断水に加え、通信の断絶やがれきりや崩壊による道路交通網のまひなど、危機的な状況にありました。このような中、真っ先に動いたのが、町内内陸部の津波の被害を直接受けなかった地区の住民の皆さんでした。炊き出しなどの食事やがれきり撤去な

ど町民を支えてくれる活動がたくさんありました。

町内のスーパー、商店は津波の被害に遭い、食料を確保できず、さらに停電や断水が追い打ちを掛けました。災害対策本部は直ちに豊間根・荒川地区へ炊き出しの要請を行いました。「作れるだけたくさんお願いしたい」――。

このほかにも、関谷・関口地区や轟木・田子の木地区、船越地区など、多くの町民が避難し

避難者自身も参加して 住民総出での炊き出し

ていた皆さんのために炊き出しを開始しました。

豊間根地区の避難所へは、役場周辺施設へいったん避難した後、迫りくる火災から逃れた山田地区の住民が数多く避難しま

した。その避難所で始まった炊き出し。地区の自治会を中心に、米や梅干し、のり、ラップなどを各家庭から持ち寄り、保管していた精米されていない米を発電機を使って精米し、ご飯を炊きました。深夜まで続く作業。初めの1日でその数は1926個にもなりました。

その日から休みなくおにぎり

最初の一步を 踏み出す力に

停電、断水、食料不足……。町民の生活が大混乱に陥る中、活動を続ける人たちの善意がわたしたちの支えとなっています。



優しい言葉が励みに（自衛隊医療班による問診）



秋田県湯沢市による応援給水

を作り、数がある程度固定されたときはシフトを組み交代で休みをとりながら続けました。

連日の炊き出しで問題となったのが、炊き出しを行っていた人はほとんどが農家で、田植えの準備の時期が迫ってきたこと。いつまで炊き出しが続くかわからない状況で、米が作れなければ支援することもできなくなるを考え、避難所へ炊き出しの協力をお願いしました。協力をしてくれた人の中には、中高生や親子連れもいました。「震災直後は表情が暗かったが、みんなおにぎりを作っていると次第に表情が明るくなった。一緒におにぎりを作れて良かった」と地域の皆さんは言います。

この炊き出しは町民の命をつなぎ、町民の心をも明るく前向きな気持ちへと変化させてくれました。

厳しい被災地の生活を 支えた自衛隊員の活動

航空自衛隊は、地震後すぐに対策本部に駆け付け、食料、水、毛布を避難所などへ輸送。その後陸上自衛隊と合流し、行方不明者の捜索やがれき撤去、医療班の派遣、給水、風呂の設置などさまざまな支援をしていただきました。7月まで続いた自衛

隊による支援は、給食支援11万食、入浴支援の利用者は4万4千人、救援物資は大型トラック650両にもなります。

7月12日には、役場前で陸上自衛隊に対する感謝の会が行われました。沼崎喜一町長からの感謝の言葉の後、陸上自衛隊第九特科連隊長の小林栄樹一等陸佐が町民に向け「派遣活動を通じて、町に親しみが湧き、古里に対する愛着のような気持ちを抱くようになりました。美しき町に復興・発展するよう祈っています。がんばれ山田町」と力強い言葉を残してくれました。

また、7月19日の航空自衛隊に対する感謝の会にも多くの町民が集まり、隊員の皆さんに感謝を込め盛大な拍手を送りました。航空自衛隊北部航空方面隊の須田浩一等空佐は「活動期間中、皆さまから勇氣と誇りをいただきました。活動は一区切りとなりますが、山田に分屯基地がある航空自衛隊は、今後も変わらぬ身近な存在でありたいと思っています」と述べました。

生活基盤の復旧のため 続けられた懸命の支援

震災は、それまで当たり前にあった道路や水道などのライフライン、生活になくはならな



組織を超えた連携で町民の健康を守ってきた医療チーム



長期的な支援活動を行うボランティアの皆さん

い医療基盤の機能までも奪い
た。震災直後、国道や町道など
たるところでがれきが道をふさ
いでいました。そのため、けが
人の搬送や物資の流通が困難な
状態でした。町が山道に待機さ
せていた豊間根地区の建設業者
は、津波警報が解除されると重
機で道を切り開いていき、崩落
した道路には迂回路を作りまし
た。このため、けが人などの搬
送時間は大幅に短縮されました。
生きていく上で不可欠な水の
供給は、水道施設の被災により

途絶えていました。そのため県
内市町村をはじめ、長野県、京
都府、大阪府、兵庫県、秋田県
の市町村職員が給水車で給水を
行いました。また、水道は、3
月20日に山田地区の一部で通水
し、水道工事業者の夜を徹した
復旧作業と県内外の自治体の応
援により5月上旬にはほぼ復旧
しました。

手当てを必要とするけが人が
多数いる中、病院や診療所の多
くが津波の被害を受けました。
この危機的な状況で、町内診療
所の医師らは、震災直後から山

田南小学校避難所で薬剤師や看
護師、事務スタッフとともに救
護所を立ち上げ、不眠不休でけ
が人などの手当てに奮闘しまし
た。その後、全国各地からたく
さんの医療チームが続々と集ま
り、同避難所のほか県立山田高
校などを拠点として、各避難所
の救護活動を行いました。
また、医療調整会議を毎日開
き、各チームの活動報告や感染
症発生などの情報を共有し、対
応について協議。組織を超えた
連携で町民の健康を守ってきま
した。

ボランティアセンター 集まる全国からの善意

震災直後から、被災した住民
の力になりたいと、たくさんの
皆さんが支援のため町内で活動
してきました。

4月9日には、山田町B&G
海洋センター体育館を拠点とし
て、山田町災害ボランティアセ
ンターが開設。山田町社会福祉
協議会とNPO法人「大雪り
ばあねつと」が中心となり運営
に当たっています。

センターでは、ボランティア
が円滑に作業できるように手助
けを必要とする人とのマッチン
グ作業を行っています。ボラン
ティアは全国各地から集まり、

多い日で300人以上となりま
した。また、交代でボランティ
アに参加し、長期的な支援をし
てくれる自治体や企業などもあ
ります。

作業内容は▼土砂の撤去▼写
真の洗浄▼家具の移動、畳上げ
▼掃除、食器等の洗浄▼避難
所・炊き出し補助——など。特
に、がれきや土砂が流入した家
の片付けでは、泥水を吸って重
くなった畳や軒下にたまった土
砂なども「せーのっ」と声を合
わせて運び出すなど、作業に汗
を流します。

また、思い出のつまつた貴重
な写真の洗浄作業も仕事の一つ。
流出したのがれきの中から見つ
かった写真やアルバムを、ボラ
ンティアの皆さんはていねいに
ハケで汚れを落とし、きれいな
水でやわらかく洗浄。そして、
直接日光に当たらない場所で保
存します。ボランティアさんが
きれいにし、持ち主へと戻った
大切な写真は、これまでで数千
枚にものぼります。

ボランティアの皆さんが各分
野で力を発揮し、沈んでいた気
持ちを少しずつ希望のあるもの
へと変えてくれました。被災か
ら復旧・復興へ向け、町民自身
の力はもちろんのこと、たくさ
んの方々の支援が、最初の一步
を踏み出す力となっています。



①



②



③



④



⑤



⑥

①人力車に乗り、喜ぶ子供たち（5月5日）②大浦出身の小林すずさんが所属するわらび座が大浦小で公演（7月30日）③熱い応援ソングにみんな勇気づけられたファンキーモンキーベイビーズのライブ（6月19日）④保健センターで行われた航空自衛隊の演奏会（5月27日）⑤柳沢地区国道沿いに建てられた感謝を伝える看板⑥大沢小で笑顔を見せるラサール石井さんと子供たち（4月11日）⑦みんなを笑顔にさせた山田邦子さんの訪問（5月26日）⑧御蔵山で開かれたさだまさしさんのコンサートに涙と笑顔があふれた（8月17日）



⑦



⑧

瞳に映るもの

奪われた日常

これが現実なのか。いや、夢であつてくれ——。

目の前の悲惨な光景を目の当たりにし、何度も自分に問いかけました。

活気のある商店街、車が行き交う整備された道路、色とりどりのきれいな花が咲いていた公園、家族と泳ぎに行った海水浴場、フォークリフトが所狭しと走る漁港、整然と並ぶ家々。生まれたときからあつた日常の景色は、あの日、いとも簡単に奪われてしまいました。

いたるところに散らばつていくがれき、アスファルトがめくれ上がり通れない道路、破壊されて鉄の塊となつた車、二階部分や基礎しか残らない建物。どの被災した地区へ行っても、そんな光景ばかりが広がっていました。

みんなの瞳は、暗く、呆然として、悲しみに満ちていました。「悔しい」。「津波が憎い」。

そのストレートな気持ちを感じたとき、わたしは返す言葉が見つからず、ただうなづく事しかできませんでした。

あれから半年が過ぎようとして

ています。特集号の編集作業で、当時の写真を見るたびに「変わらない」と思っていた景色はもう戻らない」という思いが頭に浮かび、手が止まつてしまいました。早かつたのか、長かつたのかさえ分からず、気付いたら半年が経つていたように感じます。特集号を作つていいのだろうか。震災を思い出させる光景を載せていいのだろうか、と、ずっと悩んでいました。

復興へ向かう姿

東日本大震災発生からちょうど5カ月が当たる8月11日、山田漁港で花火大会が開催されました。

花火の打ち上げを待つ人でにぎわう会場の一角で全国から寄せられた色とりどりの風鈴が風に揺られて、涼しげな音色を響かせていました。風鈴につるさせてなびく短冊には「一緒にがんばろう」、「復興」といった、山田を応援する温かく、力強い言葉が書かれていました。

一つ一つの風鈴を見上げる子供。わたしは思わず、シャッターを切りました。その瞳は、あの日の悲しみに満ちたものではなかつたからです。

全国から差し伸べられた支援の手を握り、わたしたちは再び立ち上がりました。

被災した店舗を修理したり、新しくプレハブを建てたりして営業を再開した店。浜の活気を取り戻すため、準備に追われる漁師、みんな少しずつ歩み始め、元気を取り戻りつつあります。

取材をしていると、今の皆さんの復興へ歩みだしている明るく、輝いている姿がレンズ越しに映り、写真を撮っているわたしも笑顔になります。

復興は始まったばかりです。町の未来を思い、歩みを進める人たちの瞳は、これから進むべき道、その先にある山田の姿をしつかり見据えています。

山田は何度も津波などの大災害を乗り越えてきました。今回の大災害も、町民が力を合わせればきつと乗り越えられるはず

です。全町民一丸となり、以前のよう

な明るく、元気のある山田町にしていきましょう。
【写真提供】橋浦恒一さん／佐々木一彦さん／澁谷力さん／家の光協会／陸上自衛隊／航空自衛隊／大雪りばあねつと／秋田県北市

〈特集終わり〉



各種健康診査を実施



震災に伴う健診が追加に

アンケート調査にご協力を

町では、各種健康診査（健診）と前立腺がん検診を、左表の日程で実施します。対象者には郵便でご案内しますので、内容を確認の上、都合の良い日程で受診してください。

健診は、日々変わっていく体の変化を知るとともに、万が一

の体の異変をより早くキャッチすることができるとの大切な機会。年に一度は必ず受診し、自分の健康維持に役立てましょう。

なお、11月14日と15日に追加健診を行いますので、今回受診できない方はご利用ください。

震災に伴う健診と調査

震災の影響による生活環境の変化やストレスなどから、体調の不良を訴える人が増えていきます。町では、このような体の変化を早期に発見し、大きな病気を未然に防ぐため、18歳以上の町民を対象に東日本震災健診を実施します。

この健診は、国の助成を受け岩手医科大学と合同で行うもので、被災者の健康状態に関する調査研究も兼ねています。調査は、震災が健康にどのような影響があるかを調べるもので、被災地での住民の健康づくりに役立てられます。健診の案内にアンケート用紙が同封されていますので、ご協力をお願いいたします。

◆問い合わせ

町国保介護課 国民健康保険係
 ☎ 82-3111
 1内線137へどうぞ。

【9月～10月】

◆各種健康診査の日程

日程	会場	受付時間
9月5日	大浦漁村センター	午前9時～11時 午後1時～3時 ※9月12日は、午後1時～3時と午後5時～7時の受け付けになります。
6日、7日	保健センター	
8日	荒川農業構造改善センター	
9日、12日～13日	保健センター	
14日～16日	船越防災センター	
20日、21日	山田町農村婦人の家（桜野）	
22日	田の浜自治集会所（仮称）	
26日、27日	山田町ふるさとセンター	
28日、29日	猿神農業担い手センター付近仮設住宅集会場	
30日 10月1日	保健センター	

◆健康診査の種類（年齢は来年3月31日現在）

検診の種類	対象者	自己負担金	検査項目
特定健診 （国民健康保険加入者）	40歳～74歳で山田町国民健康保険に加入している方	無料	問診、身長、体重、腹囲、血圧測定、尿糖・尿たん白検査、脂質検査、糖代謝、肝機能検査
特定健診 （社会保険被扶養者）	加入している医療保険者などから案内と受診券が届いている方	加入している医療保険者が定める額 ※東日本大震災健診を同時に受診する方は無料	
後期高齢者健診	・75歳以上の方 ・65歳以上で、一定の障害があると認定され後期高齢者医療保険証の交付を受けた方	無料	特定健診の検査項目から腹囲を除いたもの
若年者健診	19歳～39歳の方	1,000円 ※国民健康保険加入者と町民税非課税世帯、東日本大震災健診を同時に受診する方は無料	特定健診の検査項目から腹囲と肝機能検査を除き、貧血検査を追加したもの
前立腺がん検診	50歳以上の男性	500円	血液検査（PSA）
東日本大震災健診	18歳以上の方	無料 ※東日本大震災健診調査研究への協力を同意していただく場合に限る	特定健診の検査項目にアルブミン、腎機能、貧血検査、尿潜血、心電図、眼底、呼吸機能検査を追加したもの

※各種健診の案内が届いた方は、これらの健診を同時に受診することで、検査項目が増えます。ただし、重複する検査項目については、二重に検査することはありません。

北東北インターハイ

ボート競技男子シングルスカル

大釋一揮君(山田高3)が5位入賞

8月9日に花巻市田瀬湖ボート場で北東北インターハイボート競技が行われ、大釋一揮君(山田高3年)が、シングルスカルで5位入賞を果たしました。1000㍎の距離で争われる同競技。震災によって山田湾での水上練習はできなくなり、週末に内陸での練習を重ねてきた大釈君は、予選から準決勝まで上位のタイムで通過。全国のトップが集まる決勝では、3分37秒53のタイムでゴールし、見事5位入賞を果たしました。

大釈君は「結果には満足していませんが、お世話になった皆さんに恩返しができたと思う。さらに練習を重ね、10月の国体では目標であるメダルを取りたいです」と話していました。



SPORTS

山田のアスリートたちが活躍

岩手県相撲選手権

沿岸代表で勝負に挑み つかみ取った優勝

ない状況でしたが、中堅、副将、大将戦で3連勝し、3・2の逆転勝ちで栄冠を手に入れました。

また、個人1部決勝リーグは五十嵐敦さん(田の浜)が7戦全勝し、圧倒的な強さで同大会3連覇を果たしました。

団体で大将を務めた五十嵐さんは「相撲ができる喜びを感じながら挑みました。結果に満足せず、次の一番に向けてさらに精進します」と話していました。



8月12日に町長に優勝報告で訪問した本町のメンバー

第58回岩手県相撲選手権が8月7日、八幡平市松尾相撲場で開催され、山田町と大槌町の混合チーム沿岸Aが団体(5人制)で優勝しました。予選リーグは3戦全勝で1位通過した同チーム。トーナメント方式で争われた決勝では、準決勝で滝沢村Aと対戦し、4・1と磐石な強さで決勝へ駒を進めました。

八幡平市との決勝戦、先鋒、次鋒と敗れ後がない状況でしたが、中堅、副将、大将戦で3連勝し、3・2の逆転勝ちで栄冠を手に入れました。

町長室から

大災害発生から5カ月余を経過しても、いまだに安否が確認できない方も多数おります。私たちは、二度と本町から津波による犠牲者を出さないために、今回の東日本大震災・大津波の惨状を記録にとどめ、教訓が風化しないように後世の人にしつかりと伝える責務があると思います▼お盆休みに帰郷した方から義援金が届けられました。勤め先の職場で古里のために募金したところ大勢の方からご協力いただいたとのこと、ありがとうございます。

▼今も全国から町の復興を願う善意が届けられています。これに心えるには、全町民挙げて一日も早く復興を成し遂げることに、これに尽きると思います▼災害復旧・復興のための水産振興費約65億円を含む101億円を追加し総額23.4億円余とする補正予算が、8月19日の議会で可決されました。産業の復興へ向けて一歩前進です。

山田町長 沼崎 喜一

おしらせ

町で期限付臨時職員募集します

町では、非常勤職員と期限付臨時職員を募集します。採用を希望する方は、町町民課または役場各支所に備え付けの履歴書に必要事項を記入し、9月14日までに下記の申込先に提出してください。選考方法は書類（履歴書）審査と面接です。

◎臨時職員（一般事務補助）

- ▷ 募集人数 1人
- ▷ 勤務場所 税務課
- ▷ 応募資格 町内に住所があり、パソコンの操作ができる人
- ▷ 賃金 月額5,500円
- ▷ 任用期間 10月1日～来年1月31日
- ※必要に応じ、最長で来年5月31日まで期間が更新されます。
- ▷ 申込先 町総務課
- ◆ 問い合わせ 町税務課町民係（内線111）へどうぞ。

◎非常勤職員（学童保育業務）

- ▷ 募集人数 2人
- ▷ 勤務場所 町内の放課後児童クラブ
- ▷ 応募資格 町内に住所があり、教員免許または保育士の資格があるか、児童福祉施設での勤務経験がある人
- ▷ 報酬 月額108,000円
- ▷ 任用期間 10月1日～来年3月31日
- ▷ 勤務形態 週29時間勤務
- ◆ 申込先・問い合わせ 町健康福祉課児童福祉係（内線146）へどうぞ。

◎非常勤職員（電話交換手）

- ▷ 募集人数 1人
- ▷ 勤務場所 総務課
- ▷ 応募資格 町内に住所がある人
- ▷ 報酬 月額80,000円
- ▷ 任用期間 10月1日～来年3月31日
- ▷ 勤務形態 ①午前8時半～午後2時半②午後0時半～5時半のいずれかの5時間で、週5日勤務
- ◆ 申込先・問い合わせ 町総務課行政係（内線412）へ。

債務整理に関する説明会開催します

「津波で家屋が被災し、ローンが残って支払いが難しい」「事業を再開したいが、地震で壊れた設備の負債が残っている」—などの悩みをお持ちの方の生活再建のため、国の方針を受け、弁護士や金融機関などを中心に「個人債務者の私的整理に関するガイドライン」が取りまとめられました。

このガイドラインが適用される対象は、東日本大震災の影響により債務の返済ができない、または近い将来返済できなくなることが確実な個人で、ガイドラインの利用により、金融機関と既存の借入れについて弁済方法の変更や債務の減免などを話し合うことができます。

岩手弁護士会では、この制度に関する説明会と相談会を開催しますので、ご利用ください。

- ▷ 期日 9月4日（日）
- ▷ 時間 説明会…午後1時～2時 相談会…午後2時～5時
- ▷ 場所 山田町商会2階
- ◆ 問い合わせ 町町民課住民相談係（内線125）へどうぞ。

防衛大学校などの学生を募集します

防衛省では、防衛大学校学生、防衛医科大学校学生、看護学生を募集します。

- ▷ 応募資格 21歳未満（看護学生は24歳未満）の男子・女子で、高校卒業または卒業見込みの人
- ▷ 試験日と試験地
 - ・看護学生…10月22日（宮古市）
 - ・防衛医科大学校学生…10月29日～30日（盛岡市）
 - ・防衛大学校学生…11月5日～6日（釜石市、盛岡市、北上市、一関市）
- ▷ 受付期間 9月5日～30日
- ◆ 申込書の請求先・問い合わせ 自衛隊宮古地域事務所（☎63-3881）へどうぞ。

各種相談行います お気軽にご利用を

- ◎ 義肢・装具等補装具巡回相談
 - ▷ 期日 10月7日（金）
 - ▷ 受付時間 午前10時半～11時
 - ▷ 場所 宮古市総合福祉センター（宮古市小山田）
 - ▷ 内容 補装具の購入・修理の要否や適合についての判定
 - ◆ 申込先・問い合わせ 9月26日までに町健康福祉課地域福祉係（内線151）へどうぞ。
- ◎ 多重債務巡回相談
 - ▷ 日時 9月12日（月）
午前10時～午後5時
 - ▷ 場所 東北財務局盛岡財務事務所（盛岡市内丸）
 - ▷ 申込期限 9月5日
 - ▷ 申込先 東北財務局多重債務相談窓口（☎022-266-5703）
 - ◆ 問い合わせ 東北財務局盛岡財務事務所理財課（☎019-625-3353）へどうぞ。

陸自岩手駐屯地で創立記念行事開催

- 陸上自衛隊岩手駐屯地の創立54周年記念行事が開かれます。
- ▷ 日時 9月18日（日）
午前8時半～午後3時
- ▷ 場所 陸上自衛隊岩手駐屯地（滝沢村）
- ▷ 内容 記念式典と観閲行進、訓練展示、戦車や装輪装甲車の体験搭乗、駐屯地音楽隊によるミニコンサートなど
- ◆ 問い合わせ 陸上自衛隊岩手駐屯地（☎019-688-4311）へ。

災害弔慰金の支給 兄弟姉妹も対象に

災害弔慰金を支給する遺族の範囲が、同居または生計を同じくしていた兄弟姉妹にまで拡大されました。災害弔慰金の支給等に関する法律が改正されたことを受け本町でも関係条例を改正したことにより、これまでの支給対象である配偶者、子、父母、孫、祖父母が存在しない場合に限り、同居または生計を同じくしていた兄弟姉妹に弔慰金を支給するものです。

対象となる方は、町健康福祉課で手続きをお願いします。

◆ 問い合わせ 町健康福祉課地域福祉係（内線151）へ。

消防設備士の法定講習が行われます

- ▷ 対象 消防設備士免状の交付を受けてから2年以内の人または前回の同講習を受講後5年以内の人
- ▷ 期日と試験地
 - ・消火設備…10月12日（盛岡市）
 - ・警報設備…10月14日（遠野市）、18日（盛岡市）、19日（奥州市）
 - ・避難設備および消火器…10月21日（盛岡市）
- ▷ 受講料 受講する講習区分ごとに7,000円
- ▷ 受付期間 9月1日～16日
- ◆ 申込先・問い合わせ 岩手県防災保安協会（〒020-0866 盛岡市本宮6丁目34-55 ☎019-631-1625）へ。

県知事・県議会議員 選挙 町議会議員選挙 ～貴重な一票を投じましょう～

岩手県知事選挙（8月25日告示）、岩手県議会議員選挙（9月2日告示）、山田町議会議員選挙（9月6日告示）が行われます。

投票日 **9月11日（日）**
投票時間 午前7時～午後6時

期日前・不在者投票

- ・役場2階特別会議室
- ▷ 期間 8月26日～9月10日
- ▷ 時間 午前8時半～午後8時
- ・船越防災センター、豊間根生活改善センター
- ▷ 期間 9月7日～10日
- ▷ 時間 午前8時半～午後6時